

## 温州ミカンの後期摘果に関する研究

(第1報) 摘果時期、程度が果実の品質におよぼす影響

河野 務・峯浩 昭・古野信雄

(大分県柑橋試験場)

KONO, T., MINE, H. and FURUNO, N.

Studies on the Preharvest Fruit Thinning of Satsuma Mandarin

(1) Effect of Time and Degree of Fruit Thinning on Fruit quality

生産過剰に伴って、生産調整および商品価値の高い果実を生産するため、9・10月に入り規格外果実(3L以上の大玉果、2S以下の小玉果等)を除去する後期摘果が行なわれるようになってきた。そこで、この後期摘果の時期、程度が果実の品質におよぼす影響について検討したので報告する。

**試験方法** 試験は当場の宮川早生、杉山温州いずれも18年生で、宮川早生は8月6日までに摘果剤(NAA)および人力により、杉山温州は8月5日に人力により、ほぼ25葉に1果に摘果した樹を用いて実施した。処理は宮川早生については9月上旬、9月下旬に2割摘果区を設け、杉山温州については9月中旬、10月中旬の2時期にサイザー摘果区、2割摘果区、4割摘果区を設け、それぞれ慣行区と比較した。いずれも1樹1処理4反復で行なった。収穫時期は、宮川早生10月30日、杉山温州11月22日であった。

**試験結果** ①果実肥大、着色、果皮の粗密に対する後期摘果の影響は、早生、普通ともに有意差が認められなかった。しかし着色のバラツキは、後期摘果区の方が慣

第1表 後期摘果の摘果率、着色指数

① 宮川早生

区	摘果前 果数	摘果率 %	1果 平均重 g	着 色 指 数
9月上旬摘果	466	18.0	150.4	78
9月下旬摘果	456	19.3	140.4	74
慢行摘果	441	0	139.1	71

② 杉山温州

区	摘果前 果数	摘果率 %	1果 平均重 g	着 色 指 数	
9月中旬 摘 果	A	396	13.1	111.8	90
	B	473	18.2	121.7	91
	C	427	40.7	131.1	96
10月中旬 摘 果	A	381	9.9	117.7	85
	B	502	17.5	108.4	89
	C	487	36.6	119.3	93
慣行摘果	435	0	108.8	86	

注) Aはサイザー摘果区 Bは2割摘果区  
Cは4割摘果区

行区よりも少ない傾向にあった。②収穫果の階級構成からみて、後期摘果は小玉、大玉果等の規格外果実を少なくするのに有効であった。

③果汁成分に対する後期摘果の影響については、早生、普通ともに差が認められなかった。

以上のことから、早生では9月以降、普通では9月中旬以降の後期摘果(仕上げ摘果)は、果実の着色遅延、品質の低下、大玉果の生産につながることはなく、むしろ後期摘果は、小玉、大玉果、着色不良果を除くことにより、L・M級の着色良好な果実を生産するのに有効な手段であると思われた。

第2表 後期摘果と果実肥大

① 宮川早生

( )内は比較

調査月日		1974年	
		9月9日	10月30日
区	横 径	mm	mm
	縦 径	mm	mm
9月上旬 摘 果	横 径	59.0(100)	73.9(125.3)
	縦 径	48.9(100)	55.8(114.1)
9月下旬 摘 果	横 径	59.6(100)	74.8(125.5)
	縦 径	51.1(100)	58.8(115.1)
慣行摘果	横 径	58.3(100)	73.0(125.2)
	縦 径	49.4(100)	55.8(113.0)
有 意 性			NS

② 杉山温州

調査月日		1974年	
		9月17日	11月21日
9月中旬 摘 果	A	横径	mm
		縦径	mm
	B	横径	mm
		縦径	mm
	C	横径	mm
		縦径	mm
10月中旬 摘 果	A	横径	mm
		縦径	mm
	B	横径	mm
		縦径	mm
	C	横径	mm
		縦径	mm
慣行摘区		横径	mm
		縦径	mm
有 意 性			NS